

# 実績評価書

(厚生労働省30(XI-1-3))

施策目標名	<p>総合的な認知症施策を推進すること(施策目標X I-1-3)</p> <p>基本目標X I:高齢者ができる限り自立し、住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らせる社会づくりを推進すること</p> <p>施策大目標1:高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう必要なサービスが切れ目なく包括的に確保される地域包括ケアシステムを構築すること</p>													
施策の概要	<p>認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、平成27年1月に関係省庁と共同で策定した「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて(新オレンジプラン)」(平成29年7月改定)に基づき、認知症施策を推進している。</p>													
施策実現のための背景・課題	1	<p>我が国の認知症高齢者数は、平成24年で462万人と推計されており、2025(令和7)年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれている。今や誰もが認知症とともに生きることになる可能性があり、また、誰もが介護者等として認知症に関わる可能性があるなど、認知症は皆にとって身近な病気であることを普及・啓発を通じて社会全体として確認していくことが必要である。</p>												
	2	<p>本人主体の医療・介護等を基本に据えて医療・介護等が有機的に連携し、認知症の容態の変化に応じて適時・適切に切れ目なく提供されることで、認知症の人が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるようになる。認知症の容態の変化に応じて適時・適切に切れ目なく、そのときの容態にもっともふさわしい場所で医療・介護等が提供される循環型の仕組みを構築することが重要である。</p>												
各課題に対応した達成目標	達成目標/課題との対応関係					達成目標の設定理由								
	目標1 (課題1)	認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進・認知症の人や介護者への支援					社会全体で認知症の人を支える基盤として、認知症の人の視点に立って、認知症への理解を深めるための普及・啓発を図るとともに、認知症の人やその家族が集う取組を普及させる必要があるため。							
	目標2 (課題2)	認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供					本人主体の医療・介護等を基本に据えて医療・介護等が有機的に連携し、認知症の容態の変化に応じて適時・適切に切れ目なく提供されることで、認知症の人が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるようになるため。							
	区分 予算の状況 (千円)	平成27年度 当初予算(a) 補正予算(b) 繰越し等(c) 合計(a+b+c)	平成28年度 2,773,329,954 千円の内数 111,046,426 千円の内数 ▲21,447,199 千円の内数 2,862,929,181 千円の内数	平成29年度 2,877,841,185 千円の内数 10,045,826 千円の内数 19,121,917 千円の内数 2,907,008,928 千円の内数	平成30年度 2,979,449,692 千円の内数 ▲2,090,853 千円の内数 17,362,769 千円の内数 2,994,721,608 千円の内数	令和元年度 3,067,602,220 千円の内数 ▲2,410,499 千円の内数	令和2年度要求額	3,183,046,302 千円の内数						
施策の予算額・執行額等	執行額(千円、d)	2,830,957,887 千円の内数	2,844,715,479 千円の内数	2,896,788,862 千円の内数										
	執行率(%、d/(a+b+c))	-	-	-										
関連税制	-													
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	施政方針演説等の名称		年月日		関係部分(概要・記載箇所)									
	第百八十九回国会における安倍内閣総理大臣施政方針演説		平成27年2月12日		認知症対策を推進します。早期の診断と対応に加え、認知症の皆さんができる限り住み慣れた地域で暮らしていくよう、環境を整えてまいります。									
達成目標1について		認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進・認知症の人や介護者への支援												
測定指標	指標1 認知症サポートー数 (アウトプット)	<p>指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠</p> <p>認知症高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するために、認知症の方々を理解し、温かく見守り、支援する認知症サポートーの養成を行っており、その人数を指標として選定した。認知症サポートーの養成については、認知症施策推進総合戦略において、令和2年度末までに1200万人を育成するという目標を掲げており、毎年度その数値を上昇させることを目標としている。</p>												
		基準値	実績値					目標値	主要な指標					
		平成26年度 611万人	平成26年度 611万人	平成27年度 750万人	平成28年度 883万人	平成29年度 1,015万人	平成30年度 1,144万人	令和2年度 1,200万人	○					
		年度ごとの目標値	-	前年度 (611万人)以上	前年度 (750万人)以上	前年度 (883万人)以上	前年度 (1,015万人)以上		○					
	指標2 認知症カフェ設置市町村数 (アウトプット)	<p>指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠</p> <p>認知症の人の介護者への支援を行うことは、認知症の人の生活の質の改善にも繋がる。家族など介護者の精神的・身体的な負担を軽減するため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置の推進を指標として選定した。認知症カフェについては、認知症施策推進総合戦略において、令和2年度末までにすべての市町村で設置(1,741市町村)するという目標を掲げており、毎年度その数値を上昇させることを目標としている。</p>												
		基準値	実績値					目標値	主要な指標					
		-	平成26年度 280市町村	平成27年度 722市町村	平成28年度 1,029市町村	平成29年度 1,265市町村	平成30年度 集計中	令和2年度 1,741市町村	○					
		年度ごとの目標値	-	前年度 (280市町村)以上	前年度 (722市町村)以上	前年度 (1,029市町村)以上	前年度 (1,265市町村)以上		(○)					

## 達成目標2について

## 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

測定指標

**指標3**  
 認知症サポート医養成研修、かかりつけ医認知症対応力向上研修、一般病院勤務の医療従事者認知症対応力向上研修、看護職員認知症対応力向上研修の修了者数の合計値(太枠内は研修毎の修了者数(内数))  
 (アウトプット)

**指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠**

認知症高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するためには、早期診断・早期対応や認知症医療や介護における医療・介護の連携が不可欠であり、その役割を担う認知症サポート医養成研修、かかりつけ医認知症対応力向上研修、一般病院勤務の医療従事者認知症対応力向上研修、看護職員認知症対応力向上研修のそれぞれの修了者数を指標として選定した。これらの修了者数については、認知症施策推進総合戦略において、令和2年度末までに32.7万人という目標を掲げており、毎年度その数値を上昇させることを目標としている。

基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	6.4万人	9.2万人	15.7万人	19.8万人	23.5万人	32.7万人		
年度ごとの目標値								
	-	前年度(6.4万人)以上	前年度(9.2万人)以上	前年度(15.7万人)以上	前年度(19.8万人)以上			

**各研修の修了者数(内数)**

基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	0.4万人	0.5万人	0.6万人	0.8万人	1.0万人	1.0万人		
年度ごとの目標値								
	-	前年度(0.4万人)以上	前年度(0.5万人)以上	前年度(0.6万人)以上	前年度(0.8万人)以上			

基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	4.2万人	4.8万人	5.3万人	5.8万人	6.3万人	7.5万人		
年度ごとの目標値								
	-	前年度(4.2万人)以上	前年度(4.8万人)以上	前年度(5.3万人)以上	前年度(5.8万人)以上			

基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	1.8万人	3.9万人	9.4万人	12.2万人	14.7万人	22.0万人		
年度ごとの目標値								
	-	前年度(1.8万人)以上	前年度(3.9万人)以上	前年度(9.4万人)以上	前年度(12.2万人)以上			

基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	-	-	0.4万人	1.0万人	1.5万人	2.2万人		
年度ごとの目標値								
	-	-	-	前年度(0.4万人)以上	前年度(1.0万人)以上			

**指標4**  
 認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症介護指導者養成研修の修了者数の合計値(太枠内は研修毎の修了者数(内数))  
 (アウトプット)

**指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠**

認知症高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するためには、早期診断・早期対応や認知症医療や介護における医療・介護の連携が不可欠である。認知症の人の介護にあたっては、認知症のことをよく理解し、本人主体の介護を行うことで、できる限り認知症の進行の緩徐化させ、行動・心理症状を予防できるような形でサービスを提供することが求められる。このような良質な介護を担うことができる人材を質・量ともに確保するため、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症介護指導者養成研修のそれぞれの修了者数を指標として算定した。この修了者数については、認知症施策推進総合戦略において、令和2年度末までにそれぞれ35.28万人という目標を掲げており、毎年度その数値を上昇させることを目標としている。

基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	23.09万人	25.91万人	28.42万人	30.83万人	32.95万人	35.28万人		
年度ごとの目標値								
	-	前年度(23.09万人)以上	前年度(25.91万人)以上	前年度(28.42万人)以上	前年度(30.83万人)以上			

**各研修の修了者数(内数)**

基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	19.7万人	22.2万人	24.4万人	26.5万人	28.3万人	30.0万人		
年度ごとの目標値								
	-	前年度(19.7万人)以上	前年度(22.2万人)以上	前年度(24.4万人)以上	前年度(26.5万人)以上			

基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	3.2万人	3.5万人	3.8万人	4.1万人	4.4万人	5.0万人		
年度ごとの目標値								
	-	前年度(3.2万人)以上	前年度(3.5万人)以上	前年度(3.8万人)以上	前年度(4.1万人)以上			

認知症介護指導者養成研修								
基準値	実績値					目標値	主要な指標	達成
-	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度		
-	1.9千人	2.1千人	2.2千人	2.3千人	2.5千人	2.8千人		
年度ごとの目標値								
	-	前年度(1.9千人)以上	前年度(2.1千人)以上	前年度(2.2千人)以上	前年度(2.3千人)以上			

※ 平成24年度から平成28年度は第3期基本計画期間である。

評価結果と 今後の方向性	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) ②【目標達成】
	総合判定	(判定結果) A【目標達成】  (判定理由) 測定指標1、3、4については、目標値を達成している。 測定指標2については、平成30年度の実績値は集計中であるが、直近3ヶ年度の実績値は当該年度の目標値を上回っていることから、目標を達成しているとみなすことができると判定した。
	施策の分析	(有効性の評価)  測定指標1については、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者を増やすべく、認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進を行った結果、認知症に関する正しい知識を持った認知症サポーターが増加したことから、当該施策は有効に機能していると評価できる。  測定指標2については、認知症の人やその家族等介護者への支援として、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場である認知症カフェが年々増加していることから、施策は有効に機能していると評価できる。  測定指標3、4については、認知症の人が持つ力を最大限に活かしながら、地域社会の中でなじみの暮らしや関係が継続できるように支援していくことが本人主体の医療・介護等の原則であることを、認知症の医療・介護に関わるすべての者が改めて共有するため、医療・介護現場における認知症への対応力向上研修を受講している医療・介護従事者が年々増加しており、施策は有効に機能していると評価できる。  以上を踏まえ、これらの取組は、新オレンジプランに基づき着実に進展していると評価できる。
		(効率性の評価)  測定指標1については、年間3千万円弱の予算額(平成30年度:約2千8百万円)に対し、毎年度100万人以上の認知症サポーターが養成されており、効率的な取組が行われていると評価できる。  測定指標2については、地域支援事業(平成30年度:217億円)の予算の内数で、事業メニューの一つとして実施しているところであるが、年度毎の目標値も大幅に達成できており、効率的に取り組めていると評価できる。  測定指標3・4については、地域医療介護総合確保基金(平成30年度:約60億円)等の予算の内数において、認知症サポート医等の養成数や認知症介護実践者研修修了者数等は年度毎の目標値を確実に達成しており、効率的な取組が行われていると評価できる。

	<p>(現状分析)</p> <p>測定指標1については、認知症サポーターの数の量的な拡充に加え、今後は認知症の人と接するが多い業種(金融、交通等)におけるサポーター養成数の増加や、認知症サポーターによる支援チームが具体的な支援を行う仕組み(チームオレンジ)にむけた活動の拡充に取り組んでいく。</p> <p>測定指標2については、令和2年度の目標の達成にむけて毎年設置数は増加しているが、各市町村の実情に応じ、地域の身近な場に認知症カフェが設置されるよう、自治体内での複数箇所の設置など、支援の場として認知症カフェの取組が広まるよう、一層の推進を行っていく。</p> <p>測定指標3、4については、認知症の人に対し適切な医療・介護サービスが提供されるよう、引き続き医療・介護従事者の認知症への対応力向上研修の受講の推進に取り組んでいく。</p>
次期目標等への反映の方向性	<p>(施策及び測定指標の見直しについて)</p> <p>いずれの測定指標においても目標達成が見込まれ、当該目標の達成にあたって施策の効果があらわれていると考えられる。今後は、令和元年から新たな事業として推進する、認知症サポーターによる具体的な支援を行う仕組み(チームオレンジ)の活動など、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて更に取り組んでいき、令和2年度末までの目標達成に向けて施策を推進していく。</p> <p>また、本年6月には「共生」と「予防」を車の両輪とした「認知症施策推進大綱」が「認知症施策推進関係閣僚会議」にて決定された。今後は本大綱に沿った目標に向けて、認知症施策の更なる推進を図っていく。</p> <p>(予算要求について)</p> <p>認知症施策推進大綱に基づき、共生と予防を両輪とする総合的な取組を推進するため、引き続き必要な予算を要求する。</p> <p>(税制改正要望について)</p> <p>—</p> <p>(機構・定員について)</p> <p>—</p>

学識経験を有する者の知見の活用	<p>第8回政策評価に関する有識者会議福祉・年金ワーキンググループ(令和元年7月19日開催)で議論いただいたところ、①今後はアウトカムを示す指標を設定すべきとのご意見があった。具体的には、チームオレンジが有効に機能しているかどうかを把握するアウトカム指標、認知症サポーターの増加によって、見守りや声かけ等の場面も含め地域がどのように変わったのか、更には、認知症サポーターのみならず、認知症の人やその家族を地域で支援する地域づくりの状況を把握するアウトカム指標を設定すべきとのご意見があった。また、②指標4については、新オレンジプランにおける目標設定と同様に、研修階層別に分けて表記すべき、③指標3・4に連携して、研修の受講結果として医療・介護の連携がどのように進んだのかを示す指標が必要であるとのご意見があった。</p> <p>①については、チームオレンジの取組みにより、認知症サポーターの活動状況がどのように変化したか、また地域での支援がどのように変化したかを把握する必要はあるが、その具体的な方法については、今後検討していく。</p> <p>②については、指標3とあわせて、内数についても分けて表記することとした。</p> <p>③については、研修受講により医療・介護の連携がどの程度進展したかを把握する必要はあるが、その具体的な方法については、今後検討していく。</p>
-----------------	--

参考・関連資料等	認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(概要)・本文付き URL: <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/nop_1.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/nop_1.html</a>
----------	---

担当部局名	老健局総務課認知症施策推進室	作成責任者名	室長 岡野 智晃	政策評価実施時期	令和元年8月
-------	----------------	--------	----------	----------	--------